

木と土を媒介とした連関のデザイン

金子晋也

概要

本発表では、北海道厚真町の空き家を対象としたDIYによる拠点施設整備プロジェクトを通じて、「連関から開くデザイン」の可能性について考察する。プロジェクトでは、震災やコロナ禍を経て地域活力の低下が課題となるなか、空き家を学生・地域住民の活動拠点へと再生する過程で、地域材や土、籾殻などの地域資源を活用し、大学生、地域住民、職人、行政が協働する実践を展開してきた。そのなかで、木や土は、単なる建築材料ではなく、人、伝統技能、地域文化、学び、さらには土地の人文的・地質的背景を結び付ける媒介として意味付けられた。本発表では、このDIY実践を通じて形成された多主体の連関が、新たな地域との関わりや学びを生み出し、自立共生社会へと開かれるデザインのあり方について議論する。

略歴



博士（工学）、一級建築士

札幌市立大学デザイン学部准教授。1980年熊本県生まれ、2004年 琉球大学工学部環境建設工学科卒業、2006年 琉球大学博士前期課程環境建設工学専攻修了、2010年 東京工業大学理工学研究科建築学専攻修了 博士（工学）

2010-2013年 神戸芸術工科大学デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

2013-2021年 札幌市立大学デザイン学部デザイン学科助教

2021年より現職